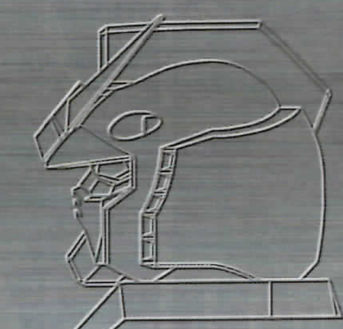
Ver. 1.5

MOBILE SUIT
RX-78-2

GUNDAM

E.F.S.F. PROTOTYPE
CLOSE-COMBAT MOBILE SUIT

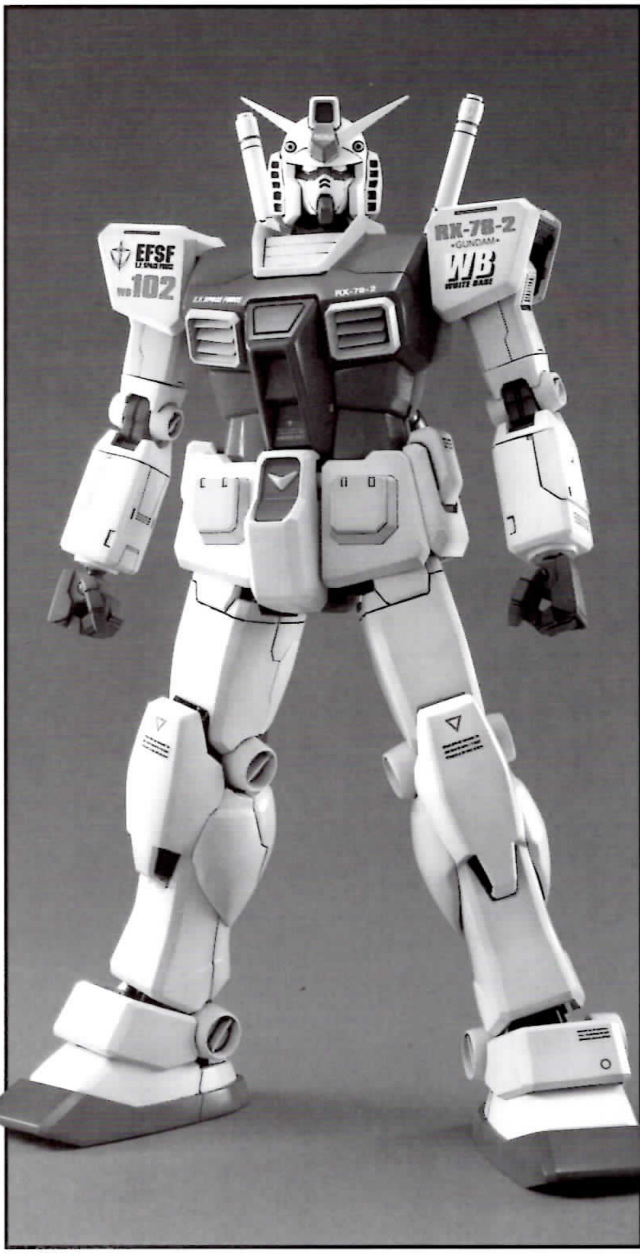


MG
MASTER GRADE

地球連邦軍白兵戦用モビルスーツ
RX-78-2「ガンダム2号機」
リニューアル+フルウエポン
1/100 スケール
マスターグレードモデル Ver. 1.5

BANDAI 2000 MADE IN JAPAN

BANDAI



RX-78-2 GUNDAM

U.C.0079年初頭。宇宙植民都市サイド3はジオン公国を名乗り、地球連邦政府に独立戦争を挑んだ。公国軍は巨大な人型機動兵器モビルスーツ（以下、ＭＳ）とＮＢＣ兵器を投入し、他の宇宙植民都市に奇襲を敢行。加えて全長30kmに及ぶコロニーシリンダーを地球に落下させた。数で勝り、圧倒的に優位であったはずの連邦軍宇宙艦隊は、旧来の戦術を覆すＭＳに翻弄され、一ケ月あまりの戦いで壊滅に等しい損害を被り、総人口の約半数が死に至った。その後、公国軍は地球降下作戦を展開。地球全土のおよそ2／3を制圧。戦闘は膠着状態に陥った。

連邦軍は、かねてより進行していたＲＸ計画に連なるプロジェクトを統合する形で、捕獲したＭＳザクを解析し、本格的な高性能ＭＳと、その母艦との開発を並行して行うＶ作戦を立案、実行した。ただし、この時点で連邦軍が公国軍に勝っていたのは、新素材の開発能力と、ビーム兵器の小型化技術だけであったと言われている。しかし、この点こそが、計り知れないアドバンテージであったことも確かである。

ＲＸ－78ガンダムは、連邦軍が指標とすべきＭＳのリファレンスとして開発された。この機体は、実質的には前年度から最強のＭＳを目指して開発が進められていたもので、その時点での最高性能と連邦軍が保有する技術力の粋を凝らして設計されている。

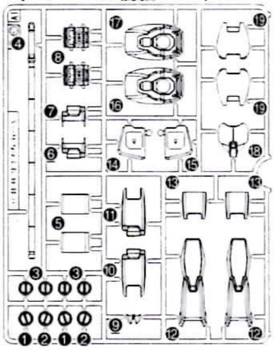
ルナ・チタニウムと呼ばれる連邦独自の新合金を採用することによって、ザクと比較して大幅な軽量化に成功したガンダムは、高い機動性と運動性を手に入れた。さらにこの素材は装甲材としても優秀であり、破格の耐久性をガンダムにもたらした。また、画期的な技術革新によって可能となったビーム兵器の携帯は、ＭＳの高機動性と、驚異的な攻撃能力をＭＳに付帯することに成功したのである。ガンダムはこれらの技術によって、当時最強の装甲と戦艦級の破壊力を持つ最新のＭＳとして誕生したのである。

ただし、連邦軍はＭＳという兵器を検証する事からはじめなければならなかった。ガンダムを始めとする連邦製の各ＭＳは、まさしくその確認のために作られたのだといっても過言ではない。ホワイトベースを母艦とし、各種戦術および戦闘のシミュレートを行い、並行してデータ収集を確実なものとする。ＭＳそのもののデータ収集は、Ｖ作戦における最優先事項でもあったのである。そのため、コア・ブロック・システムが採用されており、パイロットの脱出装置およびデータの回収ユニットとして機能する。史上初の対ＭＳ兵器として建造されたガンダムは、プロトタイプであるがゆえに、最先端の技術が投入され、時期によって、その武装やスタイルも著しく異なることがあったと言われている。それらの試行錯誤が、ガンダムをして当時最強の機体といわしめ、また、後の時代のＭＳに決定的な影響を与えるほどの戦果を残す要因ともなっているのである。

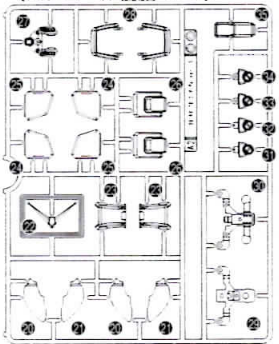


パーツリスト

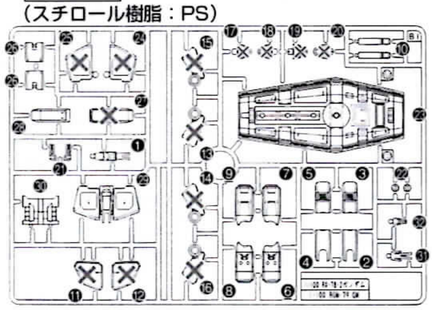
A1パーツ
(スチロール樹脂：PS)



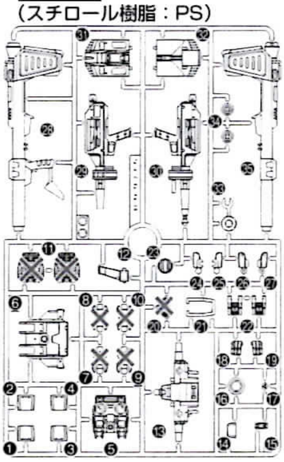
A2パーツ
(スチロール樹脂：PS)



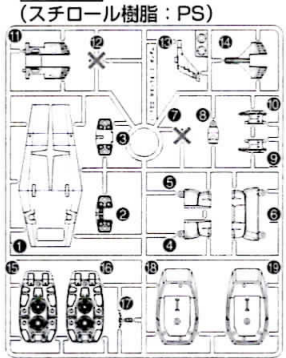
B1パーツ
(スチロール樹脂：PS)



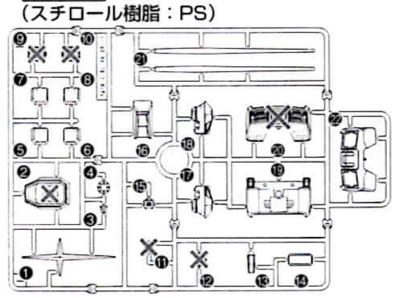
Cパーツ
(スチロール樹脂：PS)



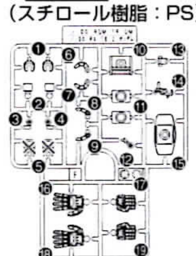
Dパーツ
(スチロール樹脂：PS)



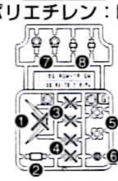
Eパーツ
(スチロール樹脂：PS)



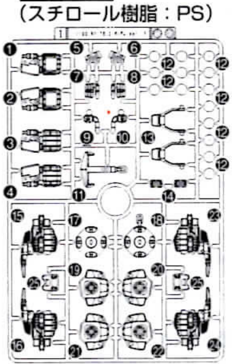
Fパーツ
(スチロール樹脂：PS)



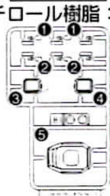
Gパーツ
(ポリエチレン：PE)



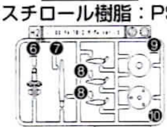
Iパーツ
(スチロール樹脂：PS)



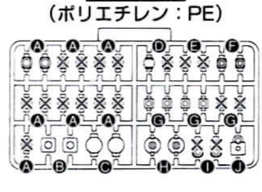
H1パーツ
(スチロール樹脂：PS)



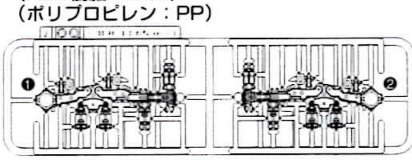
H2パーツ
(スチロール樹脂：PS)



PC-111
(ポリエチレン：PE)



Jパーツ
(ABS樹脂：ABS)
(ポリプロピレン：PP)



カラーシール………1枚
マーキングシール…1枚
ガンダムデカール…1枚
ビス……………………2個
ナット…………………2個
プラチェーン…………1本
チェーンつなぎ……2個

《お買い上げのお客様へ》

部品をこわしたり、なくした人には実費にてお分けします。「部品注文カード」に必要な部品の記号／番号／数量をはっきり書いて切り取り、郵便局で定額小為替をお買い求めいただき下記までお申し込みください。代金は、部品代（1個40円×個数）＋郵送料（120円）です。為替証書は無記入（白紙）で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じるときがあります。部品発送の際に120円を超える時は不足分を請求、120円以下の時には残額をお返しいたします。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。

■申し込み先　(株)バンダイ静岡相談センター
〒424-8735 静岡県清水市西久保305　TEL0543-65-5315

2000.06/T・ON

For Japanese use only.

部品注文カード　76372-3000
1/100SCALE MGシリーズ
RX-78-2 ガンダム Ver.1.5

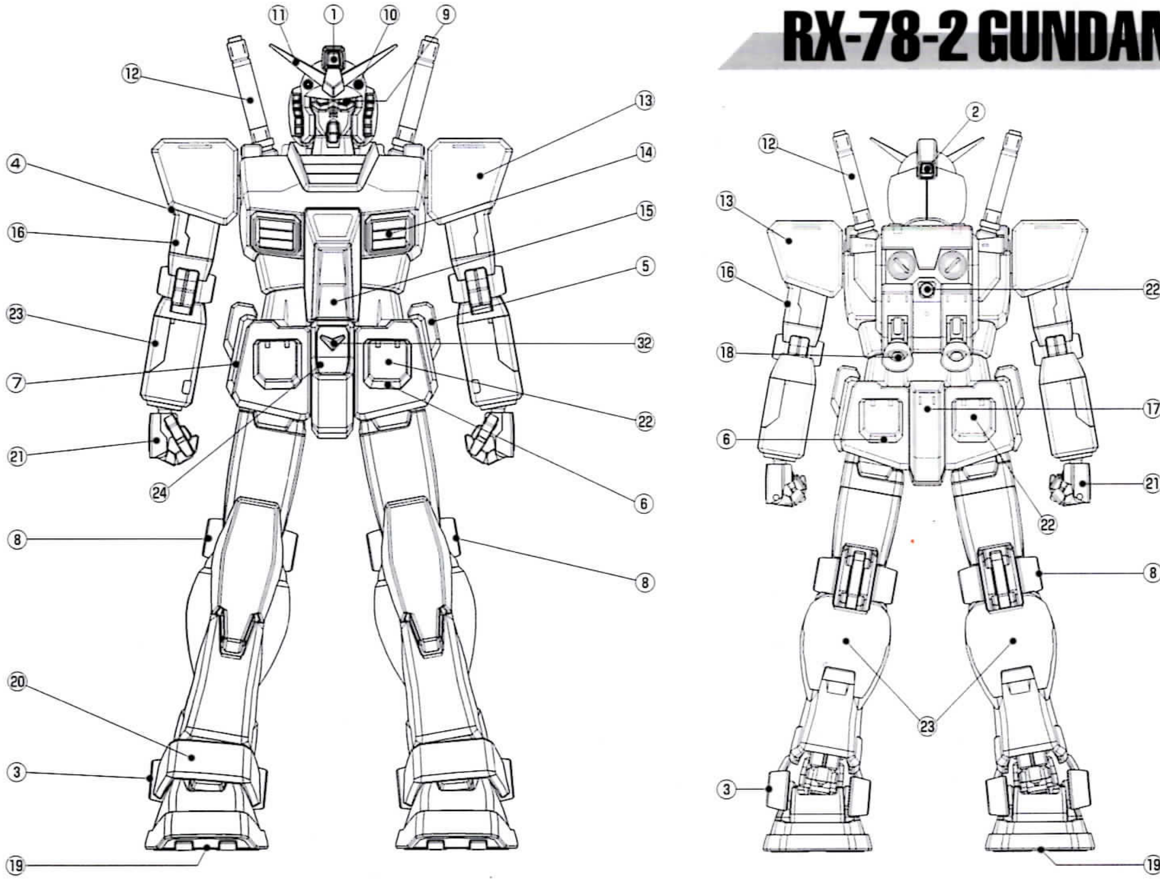
必要な部品の記号･番号･数量をかく

●注文された理由(○で囲む) (こわした･なくした)

部品の注文は「定額小為替」でお願いいたします。

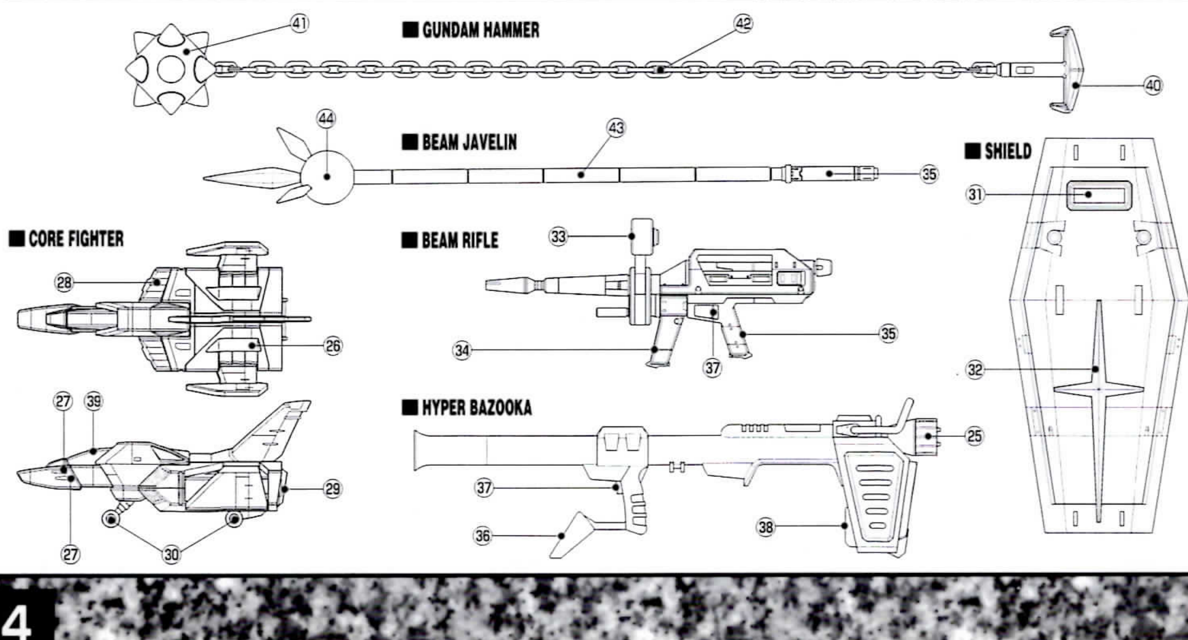
'00.06

RX-78-2 GUNDAM



①メインカメラ
②リアカメラ／センサー
③アンクルジョイントアーマー
④スラスター
⑤サブスタンスコントロールシステム
⑥コンバーターシステム
⑦サイドアーマー
⑧ニージョイントアーマー
⑨デュアルセンサー
⑩60mmバルカン
⑪マルチブレードアンテナ
⑫ビーム・サーベル
⑬ショルダーアーマー
⑭ダクト／スラスター
⑮コクピットハッチ
⑯メンテナンスハッチ
⑰マウントラッチ
⑱メインスラスター
⑲サブスラスター
⑳アンクルサポートユニット
㉑マニピュレーター
㉒ハードポイント
㉓クローキングサブスラスター
㉔フィールドデフレクター
㉕ダクト
㉖ミサイルハッチ
㉗30mmバルカン
㉘エアインテーク
㉙ロケット／ジェットノズル
㉚ランディングギア
㉛直視型ウインドー
㉜エンブレム
㉝サイトスコープ
㉞フォアグリップ
㉟グリップ
㊱マスバランサー
㊲トリガー
㊳マガジン
㊴コクピット
㊵ハンドル
㊶ハンマーヘッド
㊷チェーンワイヤー
㊸シャフト
㊹ビームヘッド

注）この機体は、ロールアウト直後から何度もオーバーホールや改修を受けている。中でも大規模なものは、U.C.0079年11月のオデッサ作戦終了後と同年12月のジャブロー防衛戦終了後の改修である。



⚠ 注　意

必ずお読みください

●この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
●小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
●ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息するおそれがあります。
●小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

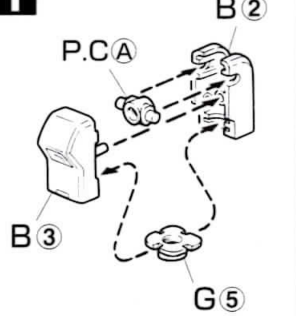
※このキットの組み立てには＋(プラス)ドライバーを使いますので別にご用意ください。

〈組み立てる時の注意〉

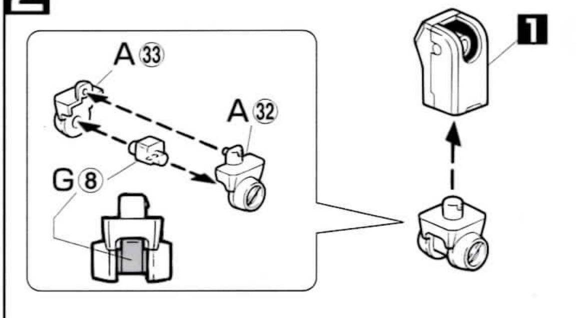
●組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
●部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
●部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
●部品の中には、やむをえず、とがったところがあるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
●塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

・接着をするところの線	ア ・シールの番号	Ⓐ ・デカールの番号	・反対側に取り付けるパーツ	・両側に同じパーツを取り付ける	・向きに注意して取り付ける
・切り取るところ	×2 ・部品を数値の個数作ります	・先に組み立てます	・後に組み立てます	180° ・数値に合わせて回転させます	・どちらかを選んで取り付ける

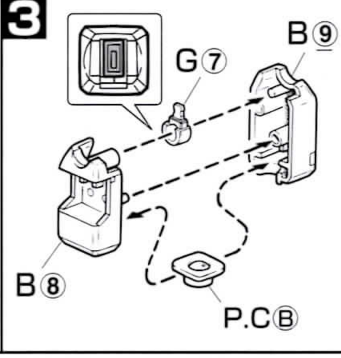
1



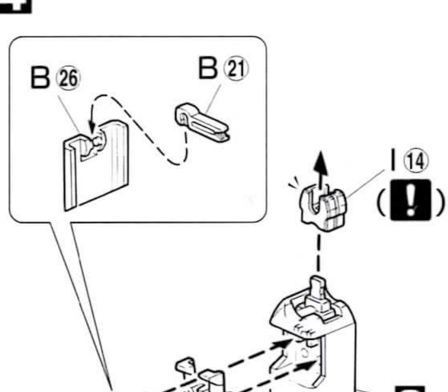
2



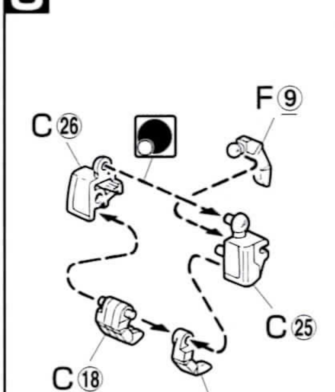
3



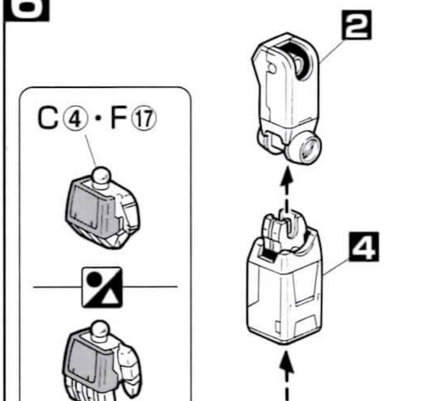
4



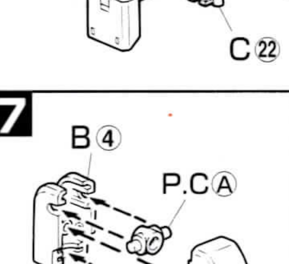
5



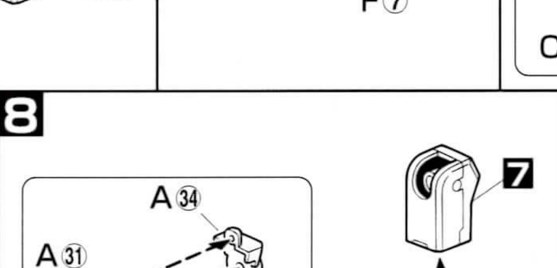
6



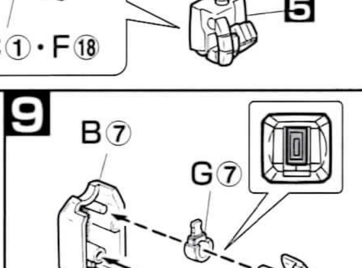
7

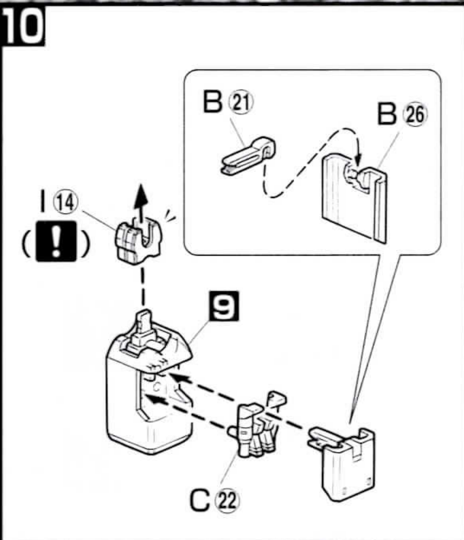


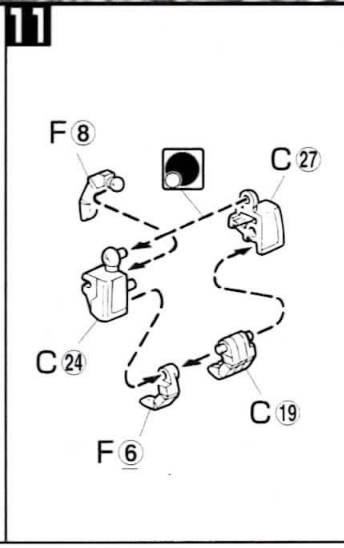
8

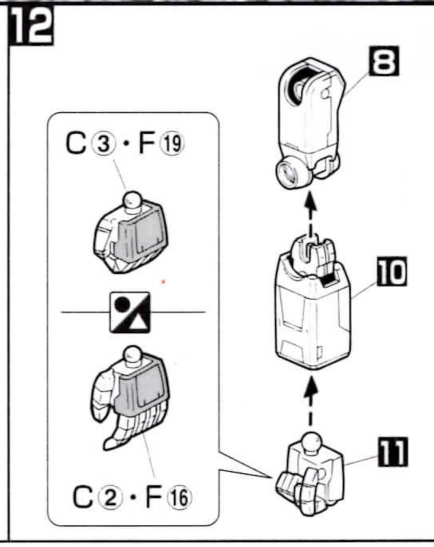


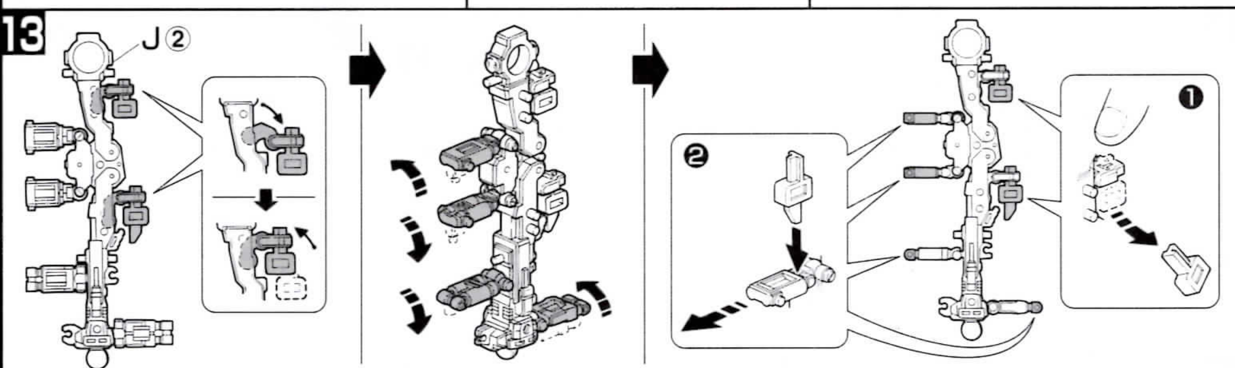
9

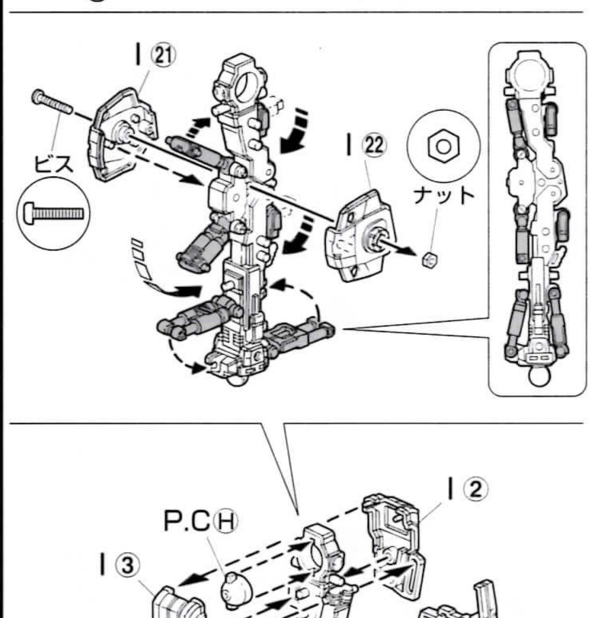


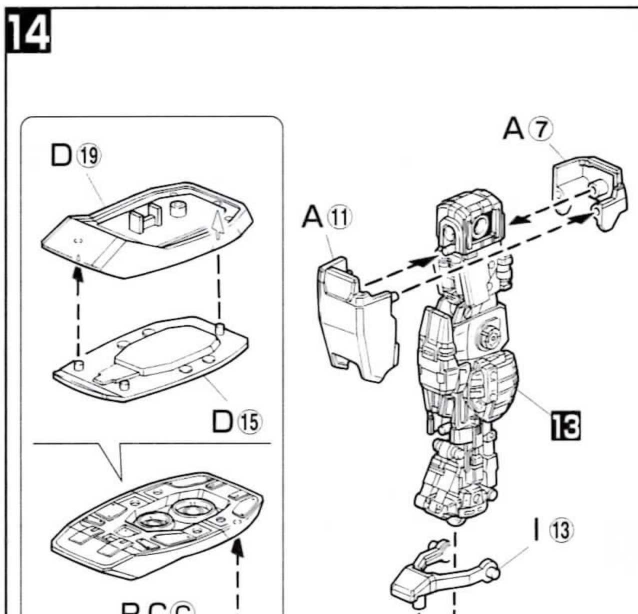

10
B ㉑
B ㉖
I ⑭
(!)
9
C ㉒


11
F ⑧
C ㉗
C ㉔
C ⑲
F ⑥


12
8
C ③ · F ⑲
10
C ② · F ⑯
11

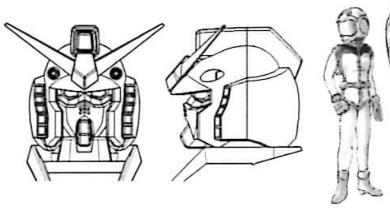

13
J ②
❶
❷

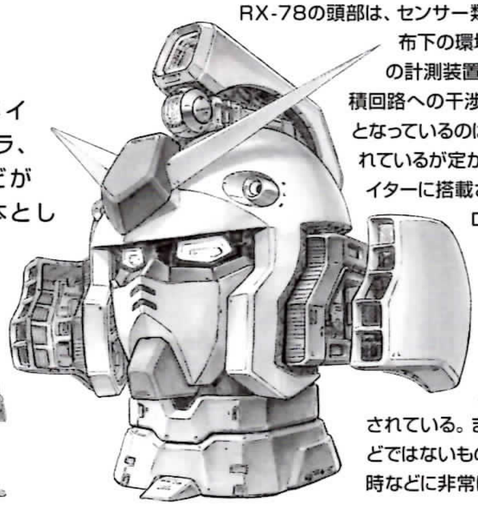

I ㉑
ビス
I ㉒
ナット
P.C Ⓗ
I ②
I ③
I ㉓
I ⑮


14
D ⑲
D ⑮
P.C Ⓒ
P.C Ⓕ
A ⑰
A ⑦
A ⑪
13
I ⑬

HEAD UNIT
HU-0078A0　S-000002

ＲＸ-78の頭部は、頭頂部のメインカメラ部と一対のデュアルカメラ、そして2門の60mmバルカンなどが内装されている。この構成を基本とした外観はガンダム系ＭＳの特徴ともなっている。





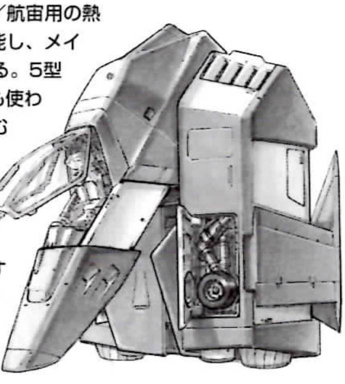
RX-78の頭部は、センサー類の集合体である。特にミノフスキー粒子散布下の環境に対応するため、光学的な走査端末や各種の計測装置などは、光統合回路でリンクされ、大規模集積回路への干渉を防いでいる。“目”の部位がデュアルカメラとなっているのは、一説には視差による計測も可能だと言われているが定かではない。メインコンピューターはコア・ファイターに搭載されているが、頭部ユニットは副次的なコ・プロセッサーフレームとしてある程度の機能を代替できるという。これほどの機能がサブシステムである頭部センサー群に盛り込まれているのは、教育型コンピューターへの負担を極力減らすための措置だとされる。ほかに、スーズ社製無段方位アンテナや、マツム・ソニック社製の通信、音響システムなども採用されている。また、頭部バルカン砲は、威力はそれほどではないものの、近接武装として、特に白兵戦展開時などに非常に有効であることが証明されている

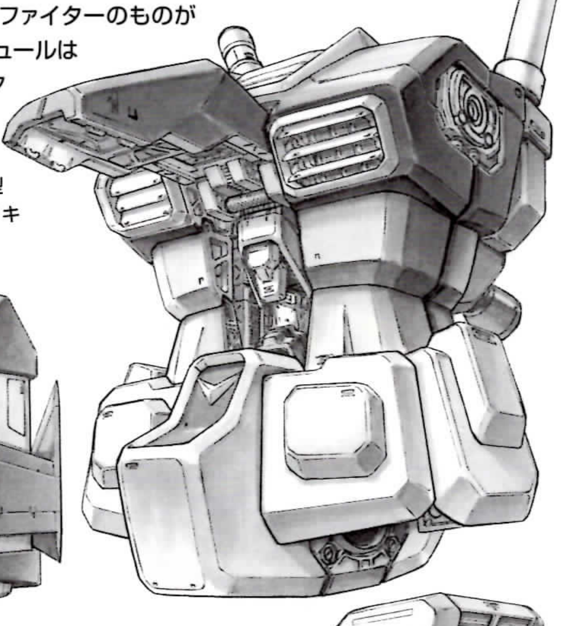
COCKPIT

RX-78のコクピットは、コア・ファイターのものがそのまま兼用される。ボディモジュールはコア・ファイターを内装した場合、小型化されたコ・ジェネレーターと組み合わされ、ザクの5倍以上のエネルギーを生み出す。

ガンダムの動力源は、コア・ファイターに2基搭載されるＮＣ-3型核融合ジェネレーターをメインとし、背部のランドセル内にあるタキムＮＣ-5型2基をサブジェネレーターとしている。ＮＣ型ジェネレーターはいずれもタキム社製で、3型はコア・ファイターの航空／航宙用の熱核ジェット／ロケットエンジンとしても機能し、メインスラスターの燃焼にも不可欠な装置である。5型はビーム・サーベルへのエネルギー供給にも使われる。さらに腰部のＮＣ-7型1基などを含む総合出力は当時の宇宙艦艇の水準をはるかに超えるものだった。

腰部は各種武装のハードポイントやマウントラッチ。そしてサブジェネレーターのＮＣ-7型、大気圏突入時などに使用する耐熱フィルターおよび機体冷却剤噴霧ユニットなどが内臓され、腰部可動のためのターレット構造を取り巻くように配置されている。

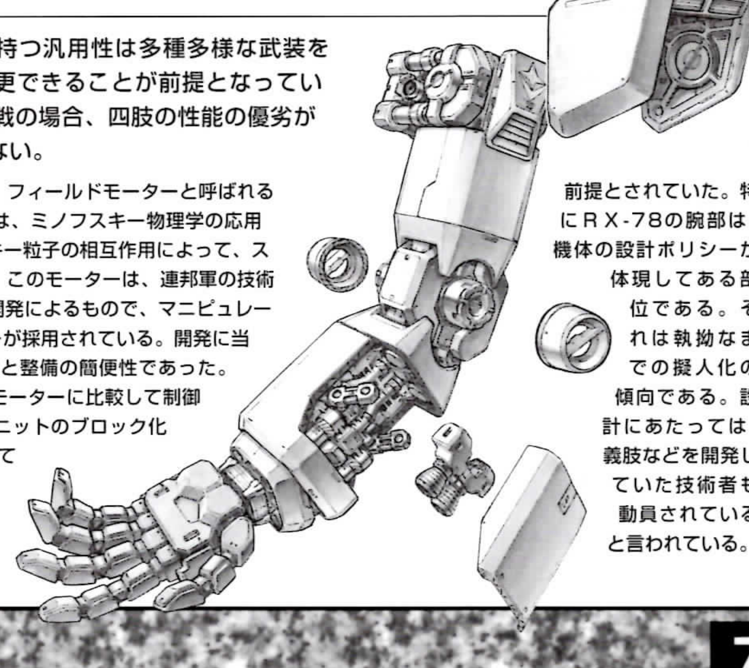




ARM UNIT
AU-0078B6　S-000018

ＭＳが持つ汎用性は多種多様な武装を容易に変更できることが前提となっている。白兵戦の場合、四肢の性能の優劣が格闘能力を決定すると言っても過言ではない。

ガンダムの各関節部分に採用される駆動装置は、フィールドモーターと呼ばれる新開発のアクチュエーターシステムである。これは、ミノフスキー物理学の応用で可能となった技術で、Ｉフィールドとミノフスキー粒子の相互作用によって、スケールを超えた大出力のトルク発生を可能とする。このモーターは、連邦軍の技術部と重電重工メーカーのサムソニ・シム社の共同開発によるもので、マニピュレーターの各部にも同様の原理によるアクチュエーターが採用されている。開発に当たって軍当局が強く希望したのは、作動の確実性と整備の簡便性であった。連邦製のフィールドモーターは、公国系のパルスモーターに比較して制御系と動力系の取り回しなどの確実性が高く、各ユニットのブロック化もあって、それらは運用上のフェイルセーフとして機能していた。ただし、その分ユニットそのものは構造的にデリケートなきらいがあり、損壊した部位は、基本的にそのユニットごと交換するのが前提とされていた。特にＲＸ-78の腕部は、機体の設計ポリシーが体現してある部位である。それは執拗までの擬人化の傾向である。設計にあたっては、義肢などを開発していた技術者も動員されていると言われている。



Mechanism illustration : BEE-CRAFT



FREE FALL

ルナツーを出航したホワイトベースは、連邦軍本部の所在地である南米ジャブローへ向かうべく、大気圏突入の準備に追われていた。そこに、新たにザク3機の補給を受けたシャアが襲いかかる！重力にまかせて落ちれば燃え尽きてしまう。その瞬間にシャアはホワイトベースに奇襲をかけたのだ。ガンダムを駆るアムロは、4分間というタイムリミットの中、出撃した。戦闘の最中、シャアに翻弄されながらも慣れぬ武器を使いこなすアムロ。しかし、高度はすでに熱圏に達し、ガンダムはホワイトベースに帰還できなくなってしまった！我も危険なら彼も危険。共に大地を見ることができるのか……!?



MAINTENANCE

ジオンの勢力圏を避けてジャブローを目指すホワイトベースは、やむなく北米大陸を横断して太平洋を目指す。度重なる戦闘でガンダムを始めとする機体は傷つき、クルーもまた、疲弊していた。孤立無縁にも等しい状況の中、少年たちは、生き延びるために機体整備を怠るわけにはいかなかった。そんな中、連邦軍からの補給部隊が接触してきた。マチルダ・アジャン率いるミデア部隊は、文字どおり、ホワイトベースの生命線を繋ぐ糸のように、物資を運び、将軍の意向を伝える。その過酷な要求はアムロたちを疲れさせるのだが、マチルダの瞳を前に、少年たちは奮起させられもするのだった。



THROWING

ユーラシア大陸を進むホワイトベースの前に"青い巨星"の異名を持つランバ・ラル率いる特務部隊が立ちはだかる。ホワイトベース部隊に討たれたガルマの仇討ちの勅命を受けていたラルの部隊は、執拗にホワイトベースを付け狙い、幾度も攻撃を仕掛けていた。ガンダムを駆るアムロは、ラルと戦う内に戦場に生きる男の生きざまを感じ、いつしか、ラルを超えたいと思うようになっていた。U.C.0079年11月。オデッサ・デーが目前に迫る頃、ラルの部隊はホワイトベースに白兵戦を挑んできた。敵味方が入り乱れる戦闘の中、傷ついたラルは兵士のさだめを見せつける。その壮絶な散り際を目の当たりにしたアムロは、なおも攻撃を続けるハモンに、怒りとも哀しみともつかぬ一撃を放つのだった……。





WEAPONS



▲プラチェーン素材を使用したガンダムハンマー、ビーム・ジャベリンを加え、豊富な各武装をフルセット。

PAINTING

※よりリアルに仕上げたいかたは、下の基本色をご覧ください。
※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

- 本体胸部などの塗装色。コバルトブルー（60%）＋インディブルー（40%）
- 本体胴部などの塗装色。モンザレッド（100%）
- 本体インテークや腰部分などの塗装色。イエロー（90%）＋オレンジイエロー（10%）
- 関節部、ビームライフルなどの塗装色。ダークグレー（50%）＋軍艦色（2）（50%）
- 内部メカニックなどの塗装色。黒鉄色（100%）
- 本体腕、脚部などの塗装色。ホワイト（100%）





FRONT VIEW



REAR VIEW





▲コア・ファイターは変形可能なタイプに加え、コア・ブロックもセット。両方とも本体内部へ収納可能。

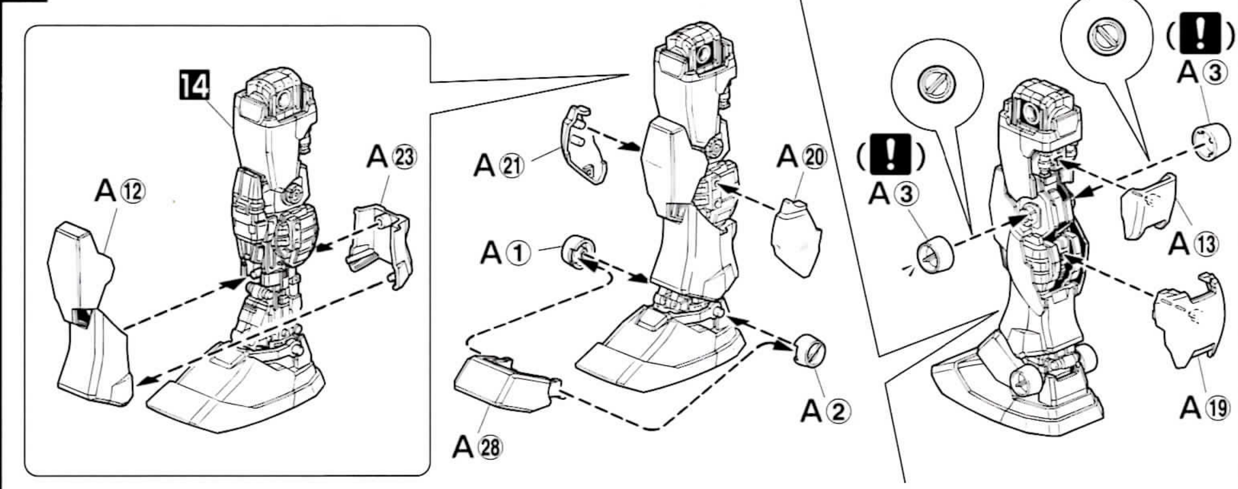


▲新たに追加された可動式の胸部ルーバーや、頭部アンテナは、シャープな精密感を追求。コクピット、パイロットも再現。

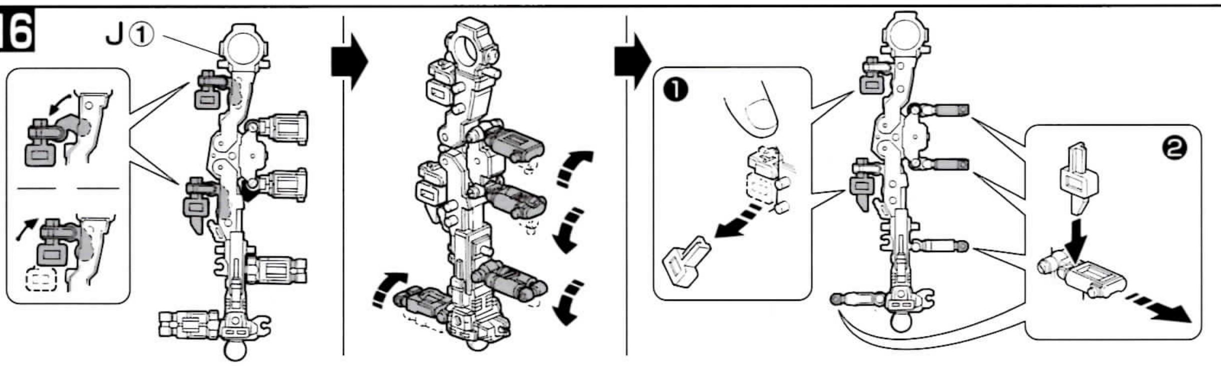


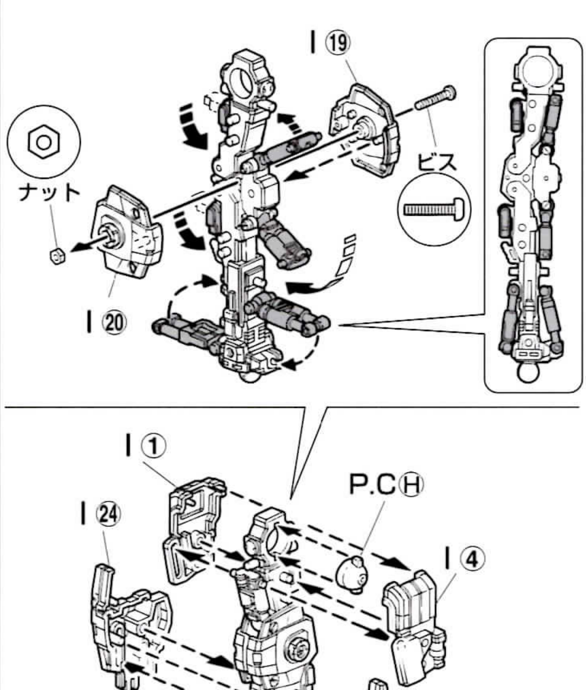
▲脚内部メカにシリンダーを一体成形した特殊パーツを使用。1/100サイズでのギミックと精密感を追求。

15

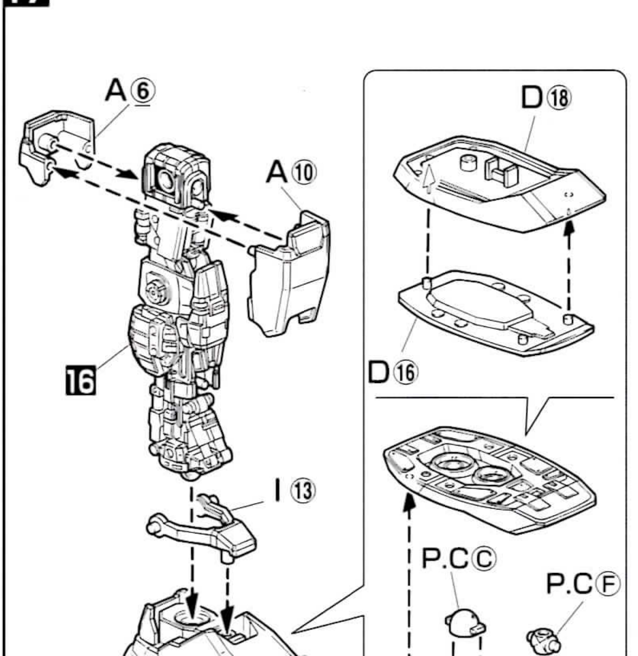

14
A⑫
A㉓
A㉑
A⑳
A①
A②
A㉘
(!)
A③
(!)
A③
A⑬
A⑲

16


J①
❶
❷


I⑲
ビス
ナット
I⑳
I①
P.CⒽ
I㉔
I④
I⑯

17

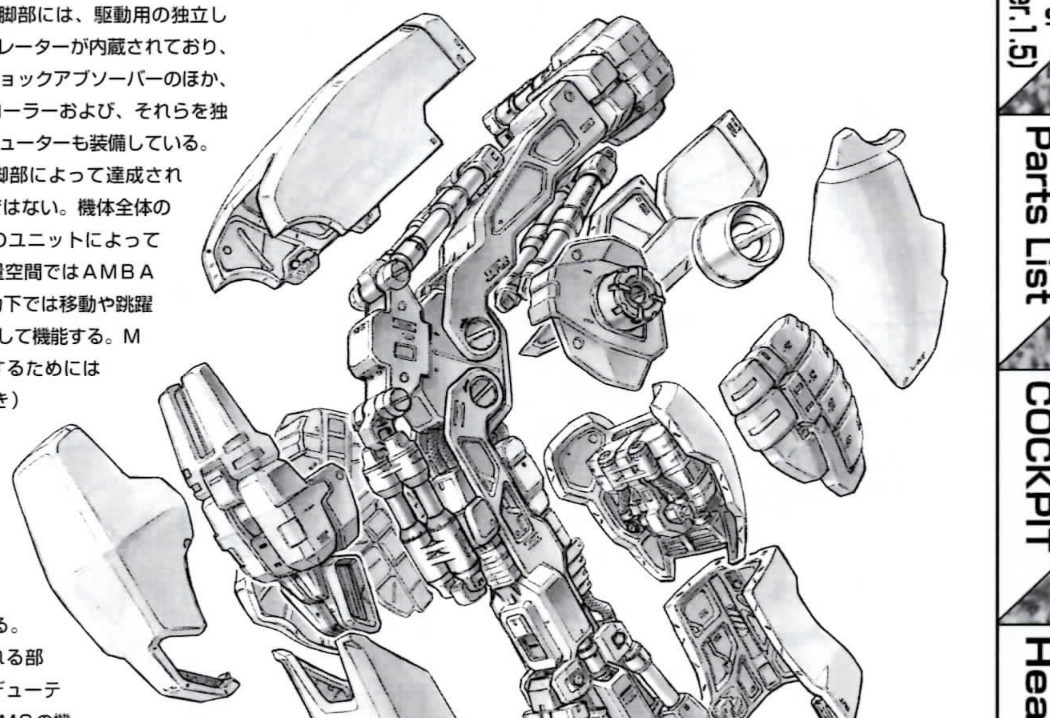

A⑥
A⑩
16
I⑬
D⑱
D⑯
P.CⒸ
P.CⒻ
A⑯

LEG UNIT

LU-0078A1　S-000031

ＭＳの脚部は、その機動性の多くを担う非常に重要なパーツである。重力下では足となって破格の走破性を発揮し、無重量空間では姿勢制御の基本モジュールとして機能するのである。

ＲＸ−78ガンダムの脚部には、駆動用の独立したＮＣ−3M型のジェネレーターが内蔵されており、姿勢制御用バーニアやショックアブソーバーのほか、各種センサーやコントローラーおよび、それらを独立／統合制御するコンピューターも装備している。ＭＳの汎用性は、この脚部によって達成されているといっても過言ではない。機体全体の質量のおよそ半分がこのユニットによって占められており、無重量空間ではＡＭＢＡＣユニットとして、重力下では移動や跳躍のための機動ユニットとして機能する。ＭＳが自らの威力を発揮するためには（いくつかの例外を除き）不可欠な物である。また逆に、その用途からは想像もできないほどデリケートなユニットでもある。そのため、総じてMSの脚部は、非常に複雑な構造となる。その上もっとも酷使される部位でもあるためヘビーデューティーでなければならず、ＭＳの機体のなかでも特に重要な所である。2脚歩行そのものはザクから入手したＯＳの解析で開発期間を短縮できたものの、設計思想が異なる機体であるため、ほとんど独自開発と同様だったという。実際、度重なる整備やオーバーホールにおいて、もっとも改修を受けた部位が脚部であると言われている。

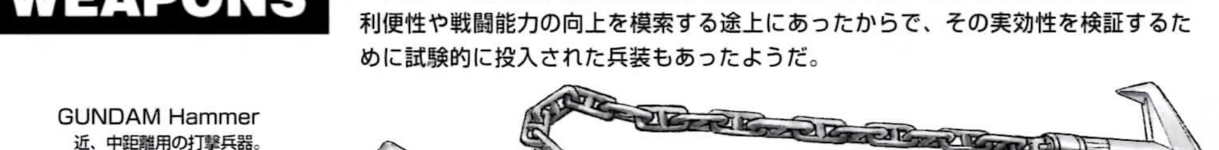


WEAPONS

ＲＸ−78が装備可能な武装は多岐にわたる。それは、ＭＳそのものが、運用上の利便性や戦闘能力の向上を模索する途上にあったからで、その実効性を検証するために試験的に投入された兵装もあったようだ。

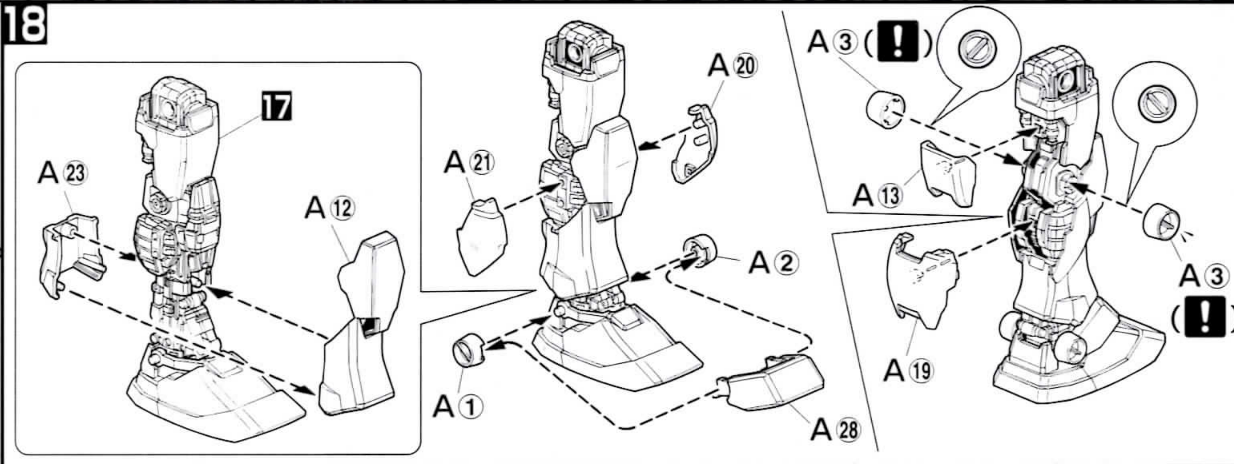


GUNDAM Hammer
近、中距離用の打撃兵器。原始的ではあるが物理的な攻撃力は対ＭＳ戦において予想以上の効果をあげたと言われている。

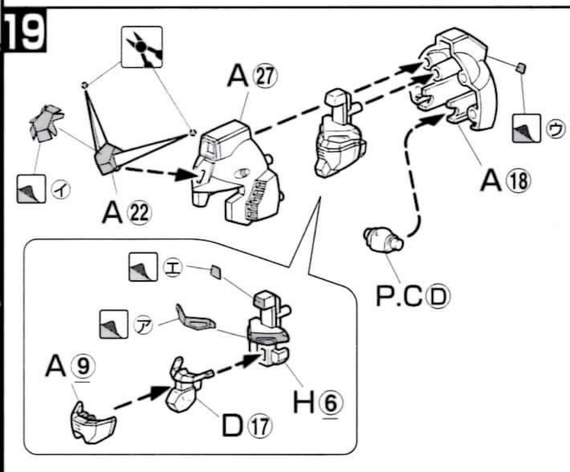


Beam Javelin
投げ槍状の投擲兵器。ビームの威力はサーベルとほぼ同等で、間合いの遠い対象との近接戦闘用武装としても使用可能。

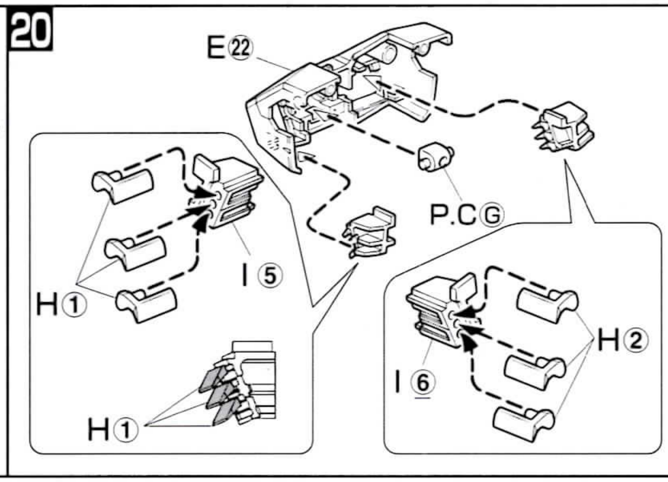
18


17
A㉓
A⑫
A㉑
A⑳
A②
A①
A㉘
A③(!)
A⑬
A⑲
A③
(!)

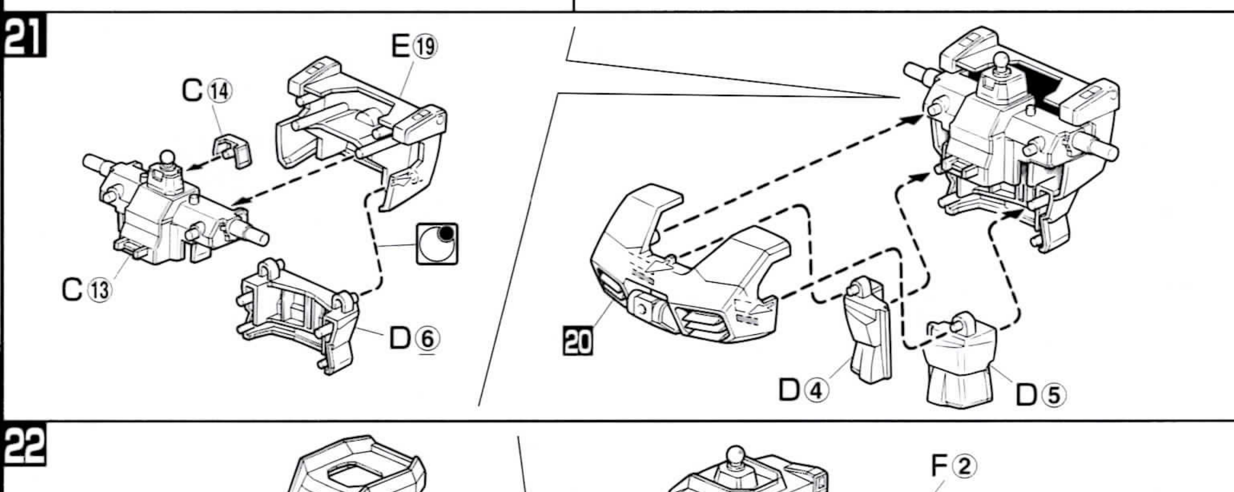
19


A㉗
イ
A㉒
ウ
A⑱
P.CⒹ
エ
ア
A⑨
H⑥
D⑰

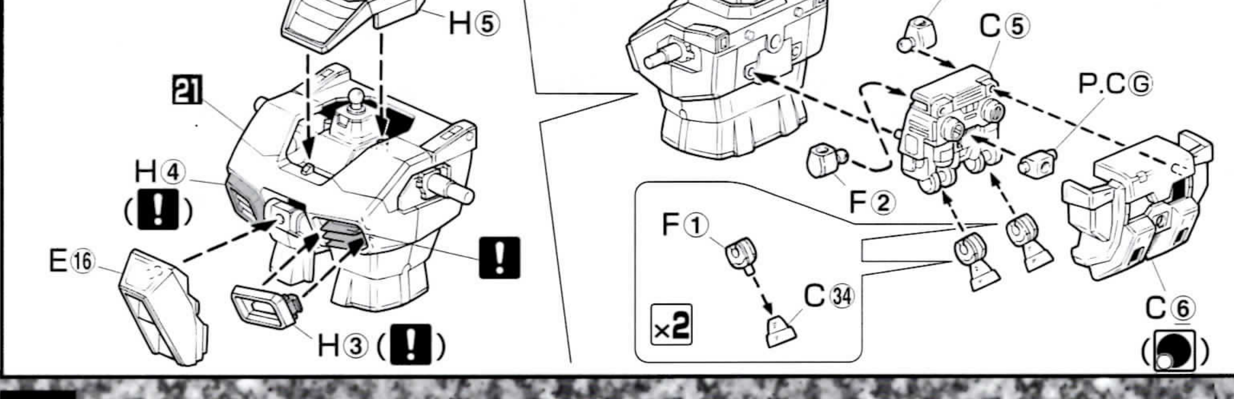
20


E㉒
P.CⒼ
I⑤
H①
H①
H②
I⑥

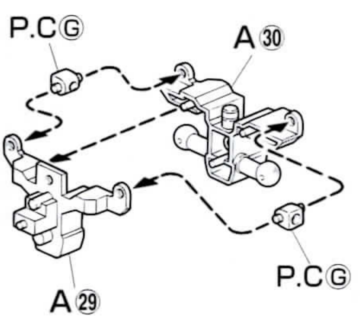
21


E⑲
C⑭
C⑬
D⑥
20
D④
D⑤

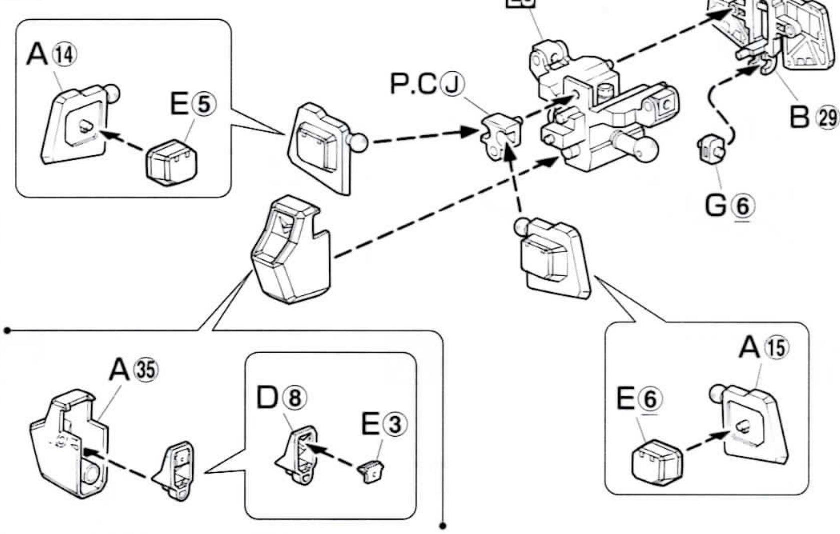
22


H⑤
21
H④
(!)
E⑯
!
H③(!)
F②
C⑤
P.CⒼ
F②
F①
C㉞
×2
C⑥

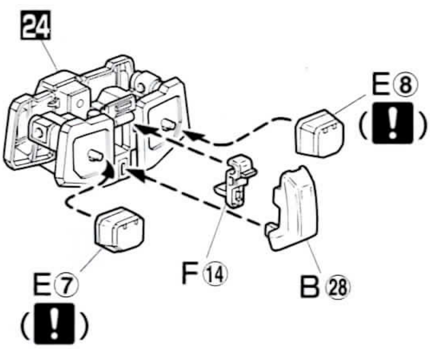
23



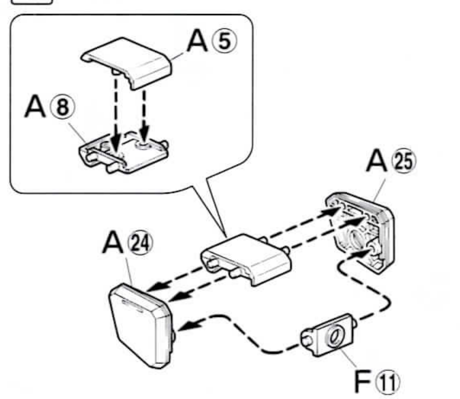
24



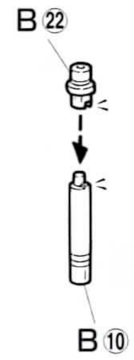
25



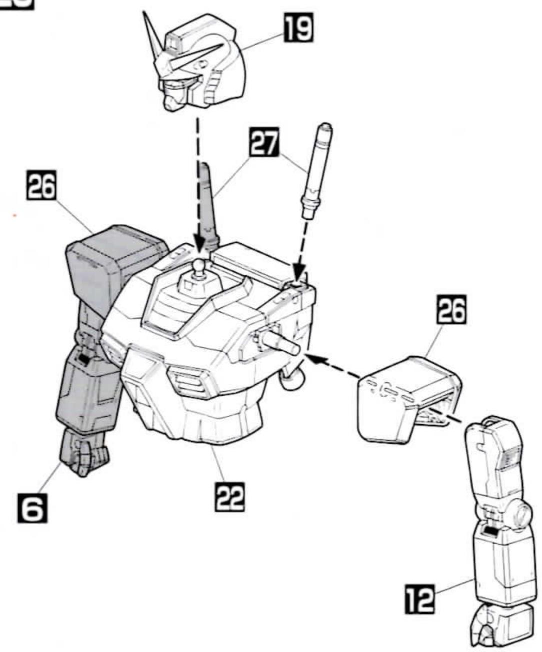
26 ×2



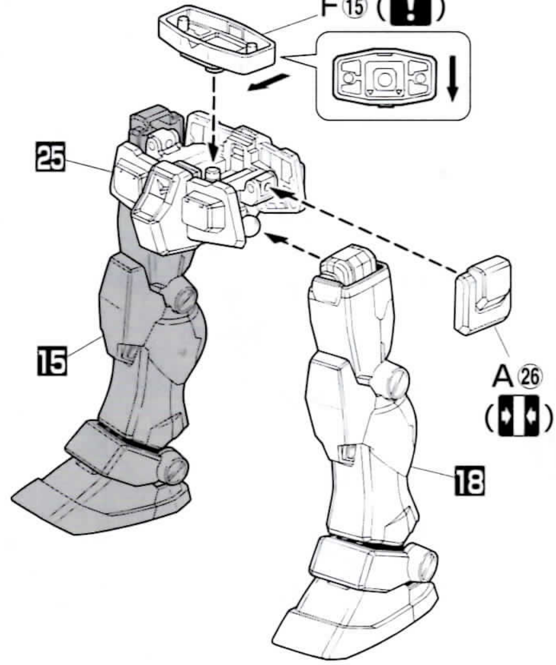
27 ×2



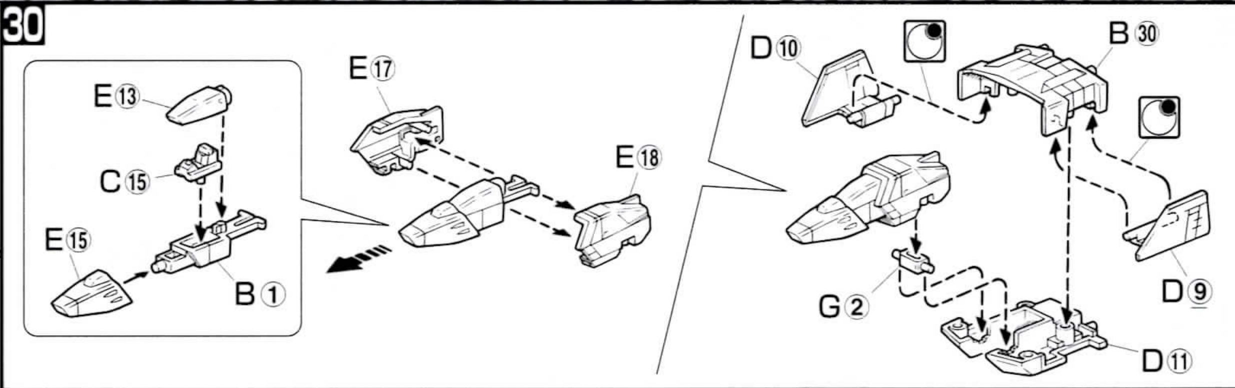
28



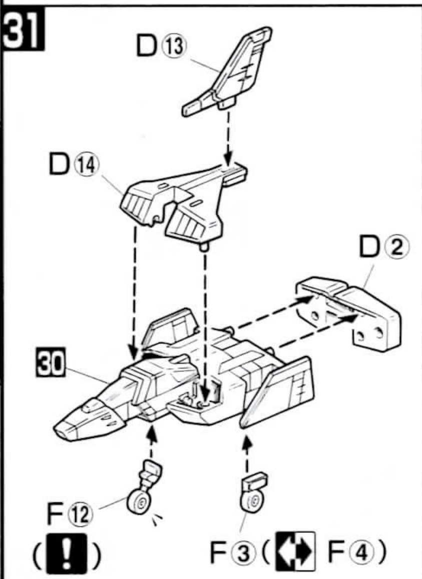
29



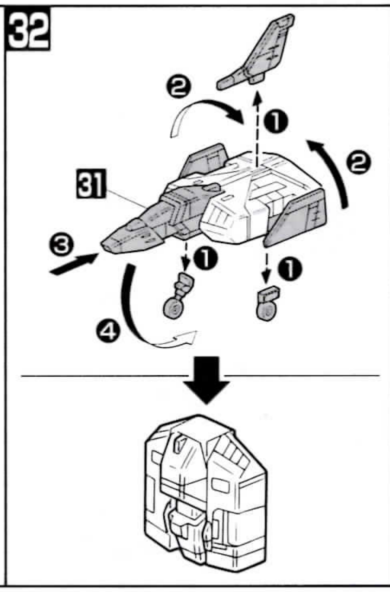
30



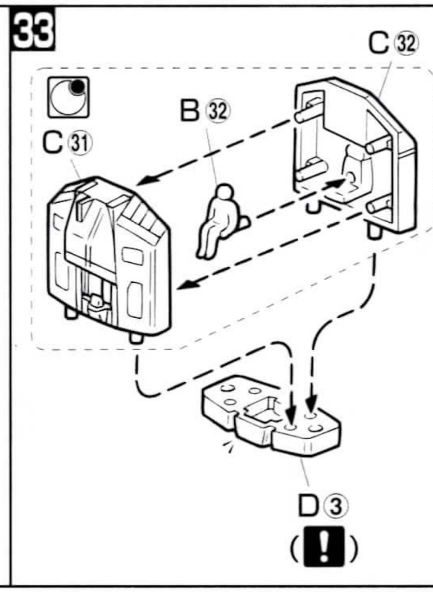
31



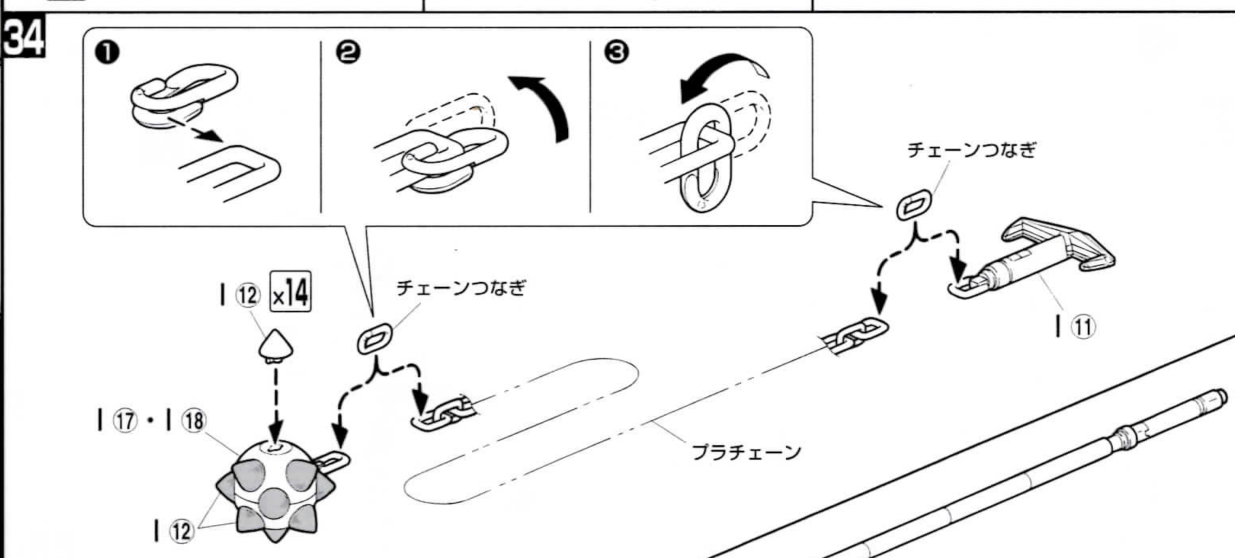
32



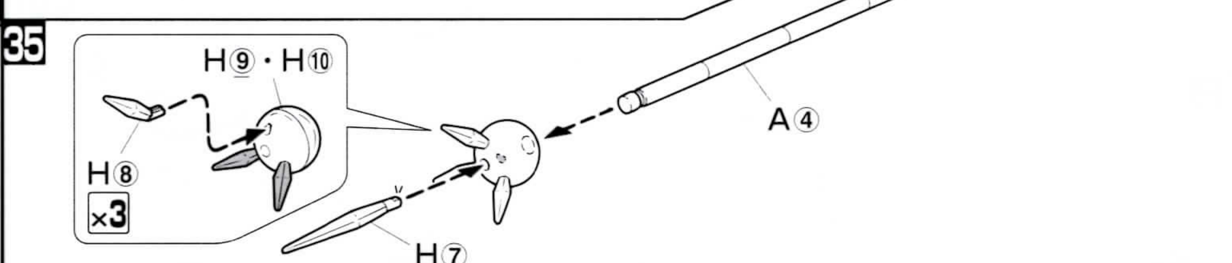
33



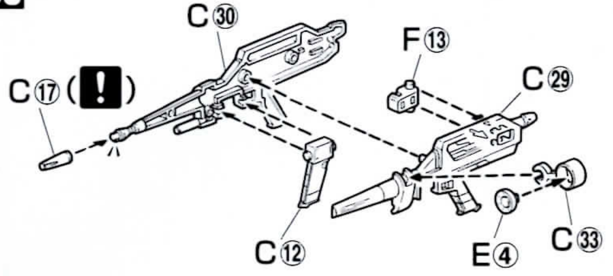
34



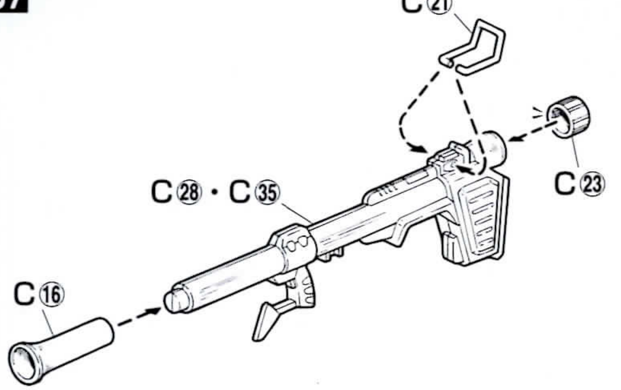
35



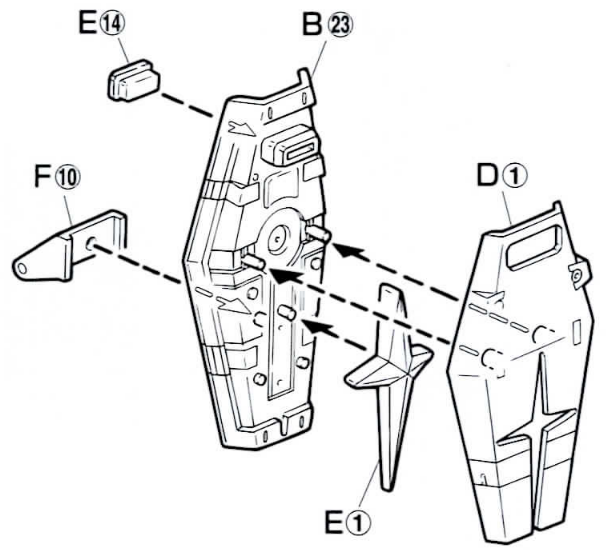
36



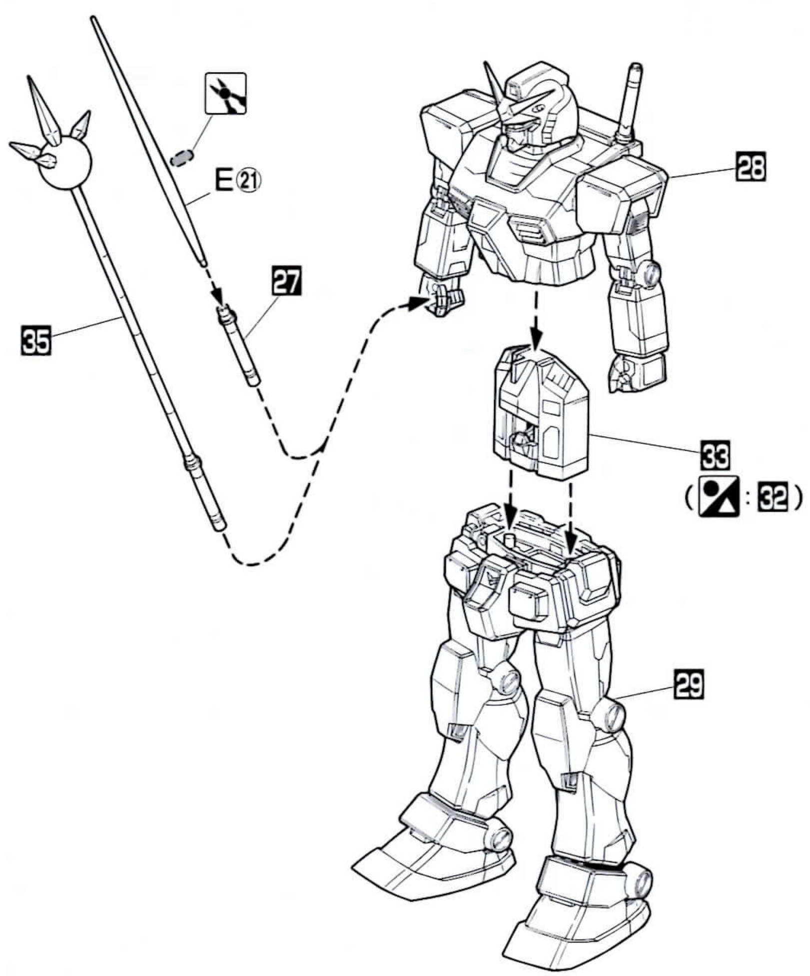
37



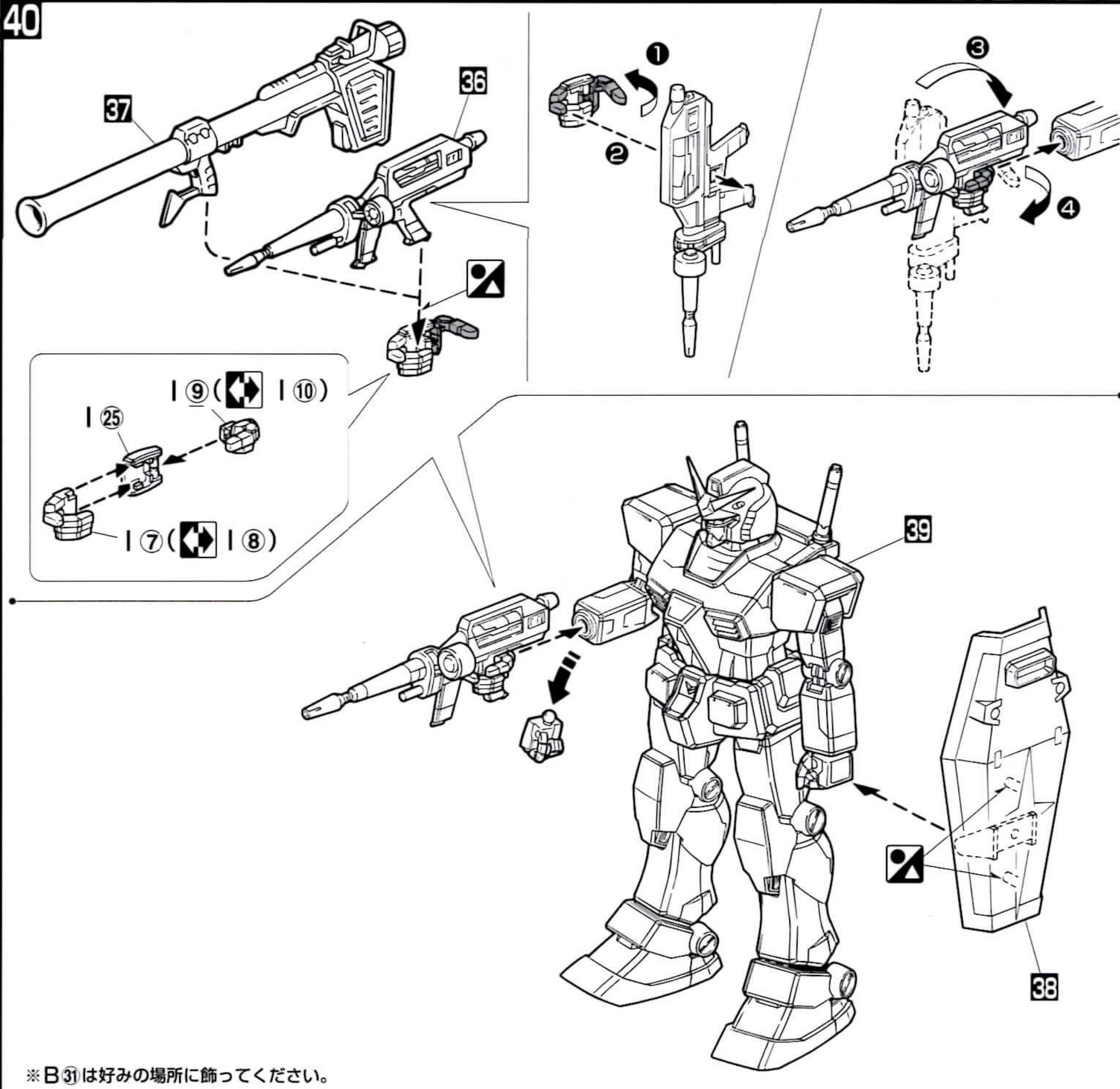
38



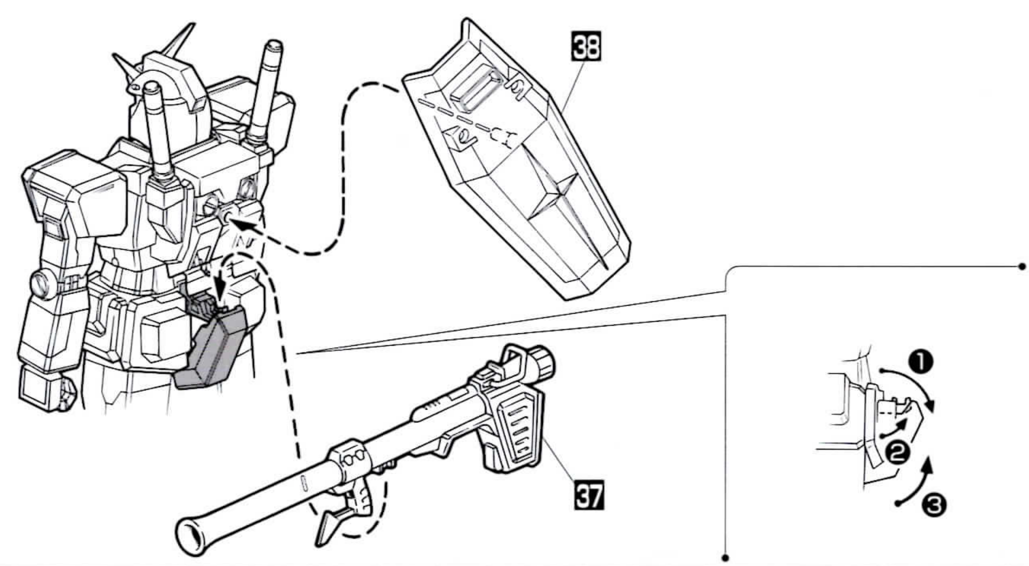
39



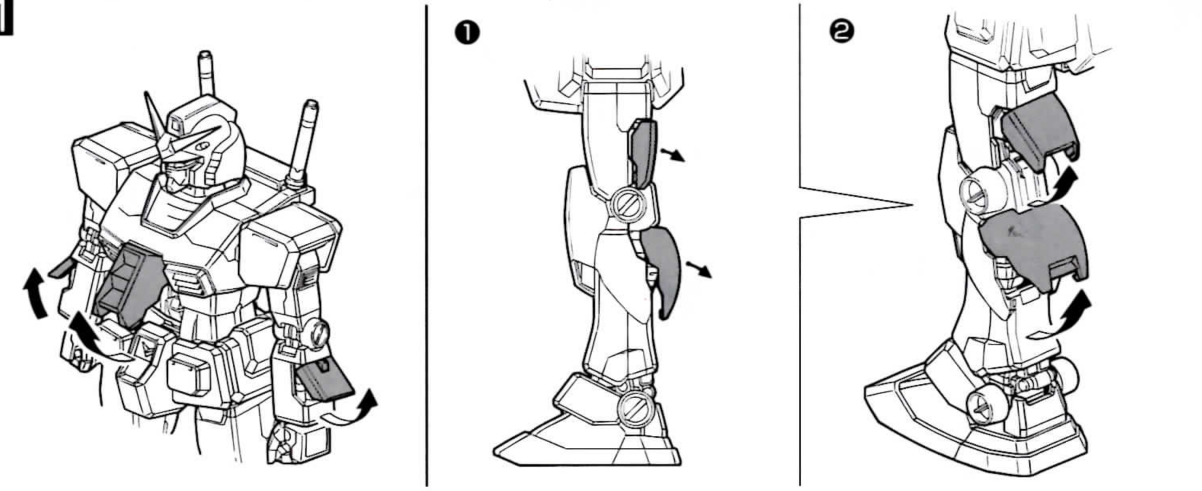
40



※B㉛は好みの場所に飾ってください。

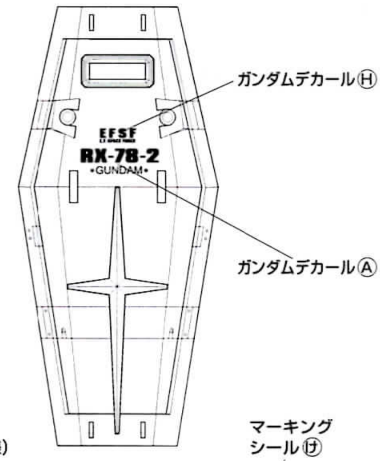


41



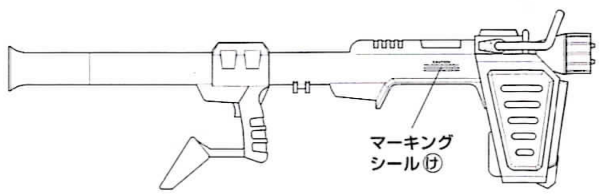
Seal
〈シール〉

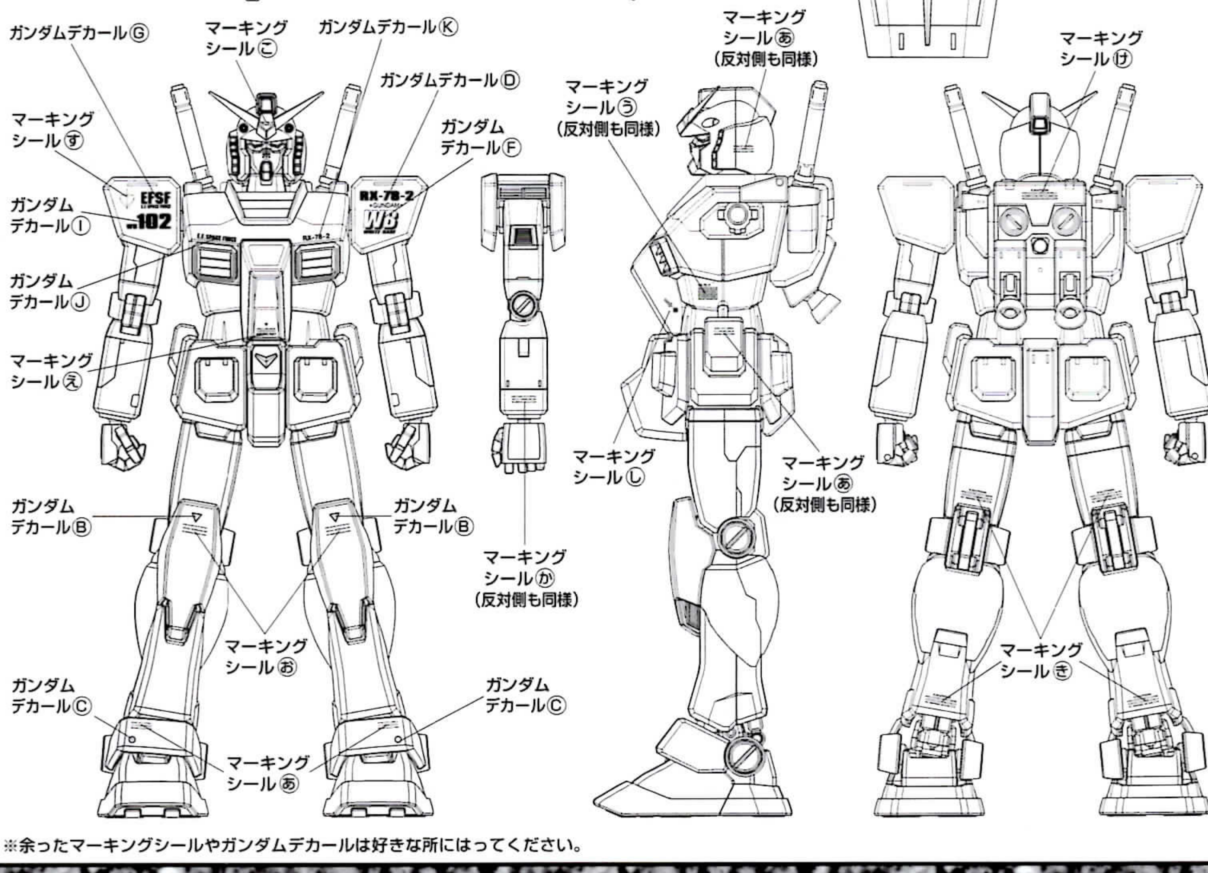
下の図を見て、ガンダムデカールやシールのはる位置を確認してください。



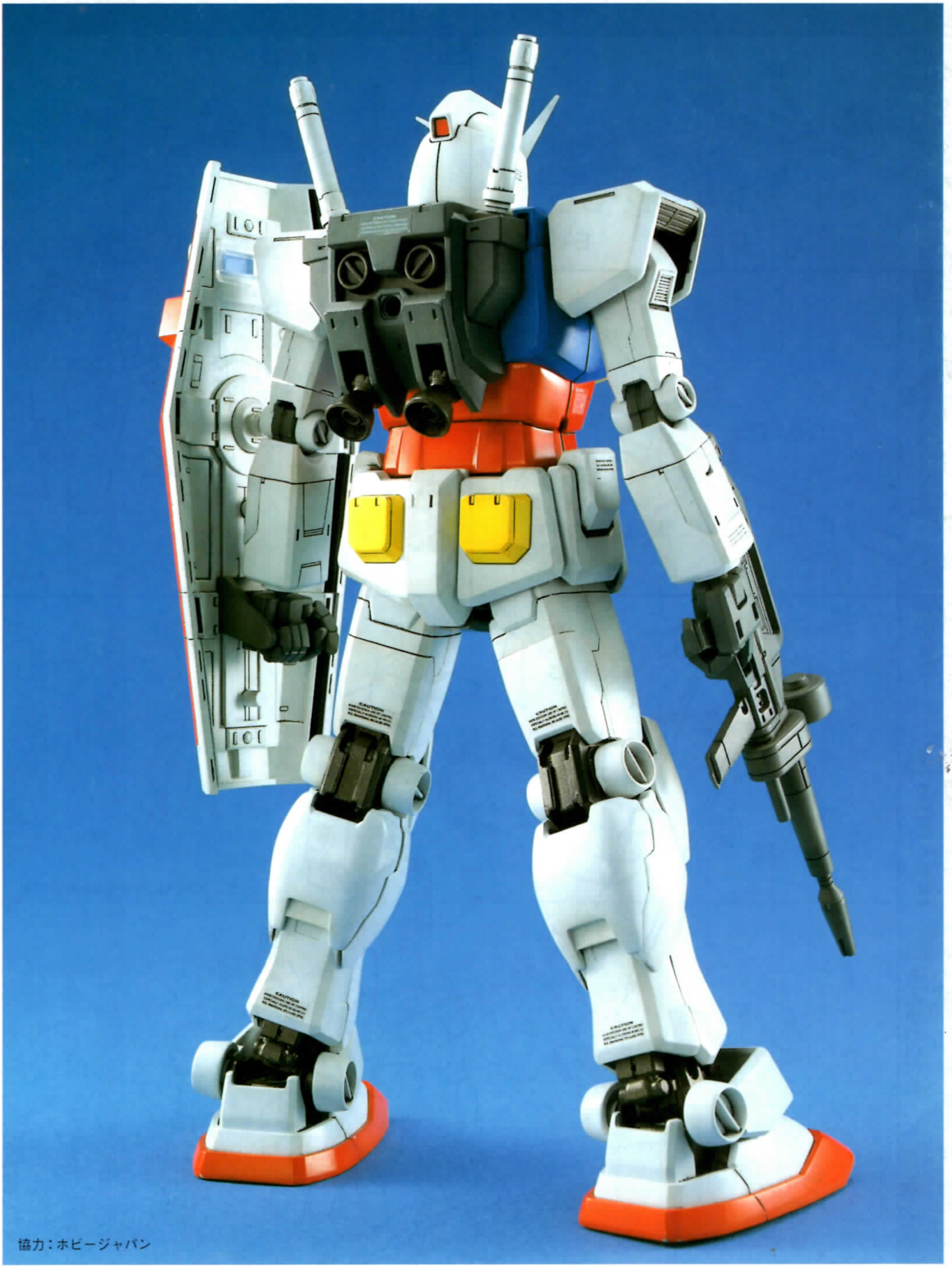
ガンダムデカールのはりかた。

1.転写するマークを大まかに切ります。
2.転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3.シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。





※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。



協力：ホビージャパン

MG MASTER GRADE

地球連邦軍白兵戦用モビルスーツ
RX-78-2「ガンダム2号機」
リニューアル+フルウエポン
1/100 スケール
マスターグレードモデル Ver.1.5

GUNDAM RX-78-2

E.F.S.F. PROTOTYPE CLOSE-COMBAT MOBILE SUIT